

抗 Rad51 (*S. cerevisiae*) 抗体, ウサギポリクローナル, ChIP grade

商品コード	62-101
容量	100 µg
保存	-20°C
濃度	1.0 mg/ml
バッファー	PBS- with 50% glycerol
純度	抗血清から抗原タンパクを用いてアフィニティー精製した
抗原	His-Tag を N-末につけた全長の <i>S.cerevisiae</i> Rad51 組換え体タンパク質 (大腸菌で発現)
アイソタイプ	ウサギ IgG
反応性	出芽酵母 Rad51 タンパク質
特記事項	N/A
アプリケーション	1. ウェスタンブロッティング (1,000~10000 倍希釈) (図 1,2)。 2. 免疫沈降実験によって、種々のタンパク質との相互作用や新規の結合タンパク質が同定出来る。 3. 間接免疫抗体法で Rad51 タンパク質の細胞内発現や染色体上の DNA 損傷部位への局在 (foci formation) を調べることが出来る。 4. Chromatin Immunoprecipitation 5. ELISA
背景	出芽酵母の Rad51 タンパク質は大腸菌の RecA タンパク質やヒト Rad51 タンパク質の機能的及び構造的ホモログであって、相同的組換え及び組換え修復において中心的な役割を果たし、相同な DNA 鎖の交換反応を促進する機能をもっている。Rad51 のパラログとして、Dmc1,Rad55, Rad57 などが知られておりこれらは Rad51 や Rad52 と複合体を形成して、組換え反応に関与している。
Data Link	UniProtKB P25454 RAD51 - Saccharomyces cerevisiae
文献	本抗体は下記の文献で使用されている 1.Ribeyre C, Shore D. Anticheckpoint pathways at telomeres Nat Struct Mol Biol. 2012;2:19 : 307-13 PMID 22343724 ChIP (<i>S. cerevisiae</i>) 2. Muramoto N et al. Phenotypic diversification by enhanced genome restructuring after induction of multiple DNA double-strand breaks. Nat Commun. 2018 May 18;9(1):1995.PMID:29777105. IF (<i>S. cerevisiae</i>)
※本製品は研究用です。診断および軍事目的に使用することはできません。	

画像: 62-101 抗 Rad51(*S.cerevisiae*)抗体, ウサギポリクローナル, ChIP grade

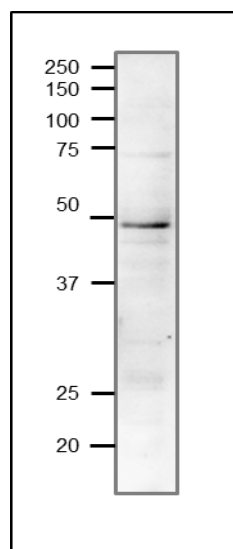


図 1 出芽酵母の粗抽出液を用いた内因性 Rad51 タンパク質のウェスタンブロットティングによる検出

抽出液中のタンパク質を 12.5% SDS-PAGE で分離し、ウェットシステムでメンブレンに転写した。抗体は 1/1,000 希釈で使用した。2 次抗体として、HRP 結合ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を 1/10,000 希釈で用いた。

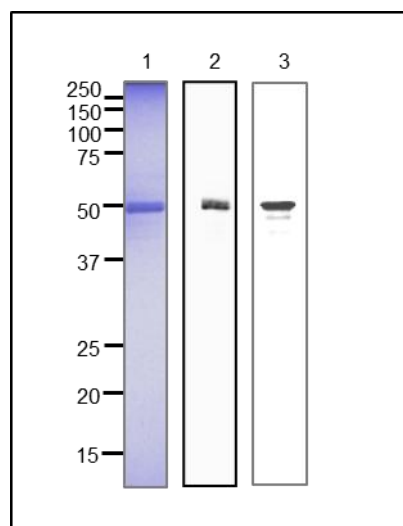


図 2 出芽酵母の粗抽出液および組換え scRad51 タンパク質を用いたウェスタンブロットティングによる検出

1. 組換え scRad51 protein の CBB 染色
2. 組換え scRad51 protein(10 ng)のウェスタンブロットティング
3. 出芽酵母野生株 BY4741 の粗抽出液を用いたウェスタンブロットティング
抗 scRad51 antibody (62-101) は 1/1,000 希釈で使用した。

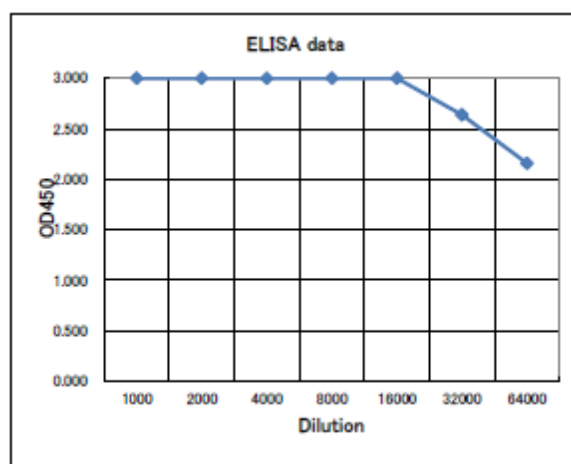


Fig.3 ELISA による抗 Rad51 抗体の抗体反応性の滴定

プレートに 1 ウェルあたり 100 µg の組換え scRad51 タンパク質 (*S. cerevisiae*) をコートし、各ウェルに指示希釈の抗血清 100 µl を加えてインキュベートした。洗浄後、2 次抗体として HRP 結合ヤギ抗ウサギ-IgG を添加した。TMB を基質として発色させた。